

KPECnews

Vol.53

2011.1.1

K i t a k y u s h u P r o s p e r i t y E n r i c h m e n t C o u n c i l

c o n t e n t s

- 01-02 新年のごあいさつ
- 03-04 特集 環境モデル都市北九州市のチャレンジ
アジア低炭素化センター(アジア・グリーン・キャンプ)の活動
- 05 もったいない総研の活動
- 05 スポーツ振興チケットによる青少年の健全育成事業
- 06 「MBA in KIGS 2010」～産学連携による高度人材の育成～
- 06 臨時理事会の報告



公益財団法人 北九州活性化協議会

•KPEC topics



イノベーションフォーラム2010 「イノベーションの場としての北九州」

「アートとしての北九州
～日本初の国際鉄鋼彫刻展と企業の関わり～」

- 平成22年12月1日(水)、北九州イノベーションギャラリーにて開催
- パネリスト：母里聖徳氏(アーティスト)、自見榮祐氏(自見産業(株)会長)、小嶋一碩氏((株)千草 代表取締役社長)、阿部盛行氏(元・新日本製鐵(株)八幡製鐵所 庶務室長)

昭和62年、八幡を芸術性豊かな鉄鋼彫刻の街として国際的にアピールしようとして開催された「国際鉄鋼彫刻シンポジウム-YAHATA'87」。鉄を素材とした作品を制作している現代彫刻作家10人がシンポジウムに参加し、新日本製鐵八幡製鐵所などの地元企業から材料や工房など支援を受け、一人30トンの鉄を使って巨大な作品を制作・展示した。

フォーラムではシンポジウムに参加したアーティスト母里聖徳氏をはじめシンポジウムを支援した方々が、不況の中7千万円規模のシンポジウムを支え成功に導いた北九州について語りました。



新年のごあいさつ

あけましておめでとうございます。

会員の皆様におかれましては、平素より、当北九州活性化協議会の運営につきまして、深いご理解と温かいご支援を賜り厚く御礼申し上げます。

中国を中心としたアジア地域が世界経済のけん引役として存在感を増していますが、国内においては、政治的混迷と経済面での不透明さを抱えたまま新年が始まりました。

本年は、九州新幹線の開業が予定されていますが、「環境モデル都市」を目指し、『アジア低炭素化センター』などの先駆的取り組みを進めている北九州市の、環境未来都市づくりに向けた活動も本格化し、新しい北九州の都市像も示されることと思います。

グローバル化の進展に伴いこの国のあり方が問われていますが、国と地方との関係についても地域主権の確立が議論される中で、地域のことは地域で決め个性的で活力のある地域社会をつくっていくことが求められています。

このための新手法として、官民がパートナーを組んで事業を行うPPP、市民・企業・行政の協働によって「公共」を実現する「新しい公共」などが期待されています。

私共、北九州活性化協議会は、昨年3月1日に公益財団法人として新しい体制により再出発しましたが、このような社会的背景を踏まえ、産官学民の連携の推進役としての役割を果たしていかなければならないと考えています。

創立20周年に臨んで4つの基本方針を策定しましたが、本年はこの基本方針の実現に向けた第一歩を踏み出す年となります。

具体的には、環境未来都市づくりの一翼を担う「もったいない総研」事業、小学校を対象にした「経済人による義務教育支援」事業、地域企業のイノベーション力の強化を目的にした産学連携による「北九州地域産業人材育成」事業、公益財団法人の寄付金税制優遇を活用して教育と芸術・文化の新興を図り都市格の向上を目指す「北九州夢のかけ橋寄金」事業を推進すると共に、指定管理施設である北九州イノベーションギャラリーの事業運営との連携も図りつつ、会員企業を初めとする地域経済界の皆様のご理解とご指導を頂き、「元気で、住みやすい、まちづくり」に取り組んで行きたいと思えます。

本年も、皆様の変わらぬご支援とご協力をお願い申し上げます。

新しい年が、皆様にとって幸多き年になりますことを、心よりお祈り申し上げます。



公益財団法人 北九州活性化協議会
会 長

西村 韶道

公益社団法人 北九州活性化協議会 役員

評議員

役職名	氏 名	企業(団体)の名称及び役職
評議員会会長	矢田 俊文	公立大学法人 北九州市立大学 学長
評議員	赤木 博	(社)西日本工業倶楽部 理事・事務局長
評議員	磯部 久治	(社)北九州銀行協会 会長
評議員	江本 幸二	(株)井筒屋 相談役
評議員	大迫 益男	(社)北九州中小企業経営者協会 会長
評議員	高宮 俊諦	福岡経済同友会北九州部会 部会長
評議員	武井 紘一	(株)安川電機 取締役副社長
評議員	戸上 勝喜	九州電力(株)北九州支店 執行役員北九州支店長
評議員	羽田野隆士	北九州商工会議所 専務理事
評議員	古川 育史	福岡ひびき信用金庫 代表理事会長
評議員	松永 守央	国立大学法人 九州工業大学 学長
評議員	明賀 孝仁	新日本製鐵(株) 執行役員八幡製鐵所長

監事

監 事	岩田 英治	(株)西日本シティ銀行 北九州地区本部副本部長
監 事	加藤 敏雄	(株)山口銀行 取締役専務北九州本部長

理事

役職名	氏 名	企業(団体)の名称及び役職	KPEC事業担当
会 長	西村 韶道	TOTO(株) 顧問	代表理事
理事長	小嶋 一碩	(株)千草 代表取締役社長	代表理事
副理事長	城水 悦子	(株)洋建築計画事務所 代表取締役社長	執行理事
副理事長	中野 文治	(株)ぶんコーポレーション 代表取締役社長	執行理事
専務理事	山崎 脛		執行理事
理 事	荒岡 利文	(株)東洋電機工業所 代表取締役社長	企画委員会
理 事	小野 卓爾	(社)北九州青年会議所 理事長	
理 事	加来 典晴	(株)加来文機 代表取締役	もったいない総研
理 事	久保 祐二	西鉄バス北九州(株) 取締役会長	義務教育支援 活動研究会
理 事	田中 久也	(社)北九州青年経営者会議 会長	
理 事	三隅 佳子	環境市民活動サポートセンター 理事長	北九州市民まちづくり 基金研究会

平成22年8月10日現在
(50音順)

新年明けましておめでとうございます。幸多き新春を健やかにお迎えのこととお喜び申し上げます。

今年は北九州活性化協議会(KPEC)が発足して23年になります。製鉄の町から「アメリカで最も住みやすい町」になったピッツバーグを見習い、北九州も日本で最も魅力的な街になるために「産官学民」が協力しようと設立されたのがKPECです。

以来、様々な団体が連携して取り組んだ結果、環境をはじめとする未来型モノづくり拠点都市として再生し、新たな賑わいづくりを目指すまでになりました。

発起団体の一つである北九州商工会議所は今、市民とすべての産業がスクラムを組んで北九州を元気にする「市農工商」連携をテーマに掲げました。それは、モノづくりの伝統を生かしながら、環境・福祉などをキーワードにつなぎ合い、さらに元気な街になることです。KPECのスクラムと情熱は、創設時の夢を必ずや実現すると信じます。

2011年が新しい北九州づくりの飛躍の年となりますよう、皆様のご協力とご支援をよろしく願いいたします。



北九州商工会議所 会頭

利島 康司



社団法人 北九州青年会議所
理事長

永田 康浩

公益財団法人北九州活性化協議会の皆様には、もったいない総研との協働事業「もったいないスクール」に、多大なるお力添えを頂いております事を厚くお礼申し上げます。

北九州市が推進する「世界の環境首都」としての環境事業や、都市活力の向上に向けた取り組みが行われる中、この様々な事業の中心に北九州活性化協議会様の活動があることに心よりの敬意を表します。北九州市発展に向けた具体的な成果を出すためには、行政や企業はもとより、市民ひとり一人の行動力が伴わなければなりません。そのためにも私たち北九州JCは、青年経済人としての気概と親世代としての責任をしっかりと自覚し、北九州活性化協議会様と市民の皆様と共に、広く運動を推進して参る所存です。

また、2012年には日本青年会議所主催の全国会員大会が、この北九州の地で開催されることが決定しており、北九州市の魅力と素晴らしさを全国に発信する絶好の機会として考えています。大会の成功に向けて、更なるご理解とお力添えをお願い申し上げます。

新年、明けましておめでとうございます。

昨年3月には自作電気自動車「電太郎」による長崎街道走破、5月には当会OB会主催で開催致しました記念講演会、そして10月には北九州イノベーションギャラリーにて開催致しました「スマイルフェスタ50」、そして翌日に新日鐵大谷体育館にて開催されました記念講演会と様々な50周年記念事業を無事に終えることが出来ました。これも(公財)北九州活性化協議会様をはじめとした関係諸団体の多大なるご尽力とご協力のおかげだど心より感謝御礼申し上げます。

私たちが生まれ育った北九州もまだまだ厳しい経済状況に置かれてはいますが、中心市街地活性化法により具体的に様々な取り組みも執り行われ、小倉地区や黒崎地区を中心とした再開発の手ごたえも確実に感じられるようになりました。

我々北青会の会員も40歳以下の若手経営者の集まりで、KPECが企画されている様々な事業や社会貢献活動を通じ、まだまだ勉強や経験を積ませて頂いておりますが、わが街北九州の経済発展、活性化の為、私たち北青会もパワーと情熱を今年もしっかりと発揮していきたいと思っています。

是非今年も(公財)北九州活性化協議会様には北九州の活性化の為、リーダー的立場としてご活躍して頂ければとご期待しております。本年もどうぞ宜しく御願ひ申し上げます。



青年経営者会議
理事長

田中 久也

アジア低炭素化センター（アジア・グリーンキャンプ）の活動

北九州市 環境局環境国際戦略室 園 順一

はじめに

現在、世界中において深刻な問題となっている地球温暖化。人類が過剰に排出したCO₂などの温室効果ガスにより、大気と海洋の温度が年々上昇しています。世界各地で、すさまじい台風や豪雨による水害が起こる一方で、逆に雨が降らないために水不足で苦しむ地域も出ています。

日本においても今年の記録的な猛暑や、ここ近年頻繁に起こる狭い地域だけに集中するゲリラ豪雨など、みなさんも地球温暖化の問題は実感されていると思います。温暖化の影響は、すでに目に見えるほど大きくなっている。これが現実です。

そこで全世界的に、温室効果ガスの排出量を削減し、化石エネルギーに依存した現在の社会から脱却した社会である低炭素社会の実現が急務となってきており、その具体的な手法としましては、「エネルギー消費量の少ない機器・設備」、「ヒートポンプによる冷暖房・給湯器」、「燃費の高いハイブリッドカー・電気自動車」の使用や燃料の転換における「風力・太陽光・地熱・バイオマス発電」などが代表例として挙げられます。

これらの技術を用いて、かつての大量生産・消費・廃棄を特徴とするフロー型社会から、住宅や橋・道路などの社会インフラを長持ちさせることにより、価値ある社会資産が長期的に蓄積（ストック）され、何度も作り直す無駄が省かれる結果、経済的なゆとりが生まれ、環境に対する負荷も少なくなるストック型社会の構築を目指す、これがまさに低炭素社会なのです。

これらの世界的な問題に対して、日本の一地方都市である北九州市が、なぜアジア低炭素化センターなるものを立ち上げ、新たなチャレンジをしていくのでしょうか。

北九州力「世界で高く評価されているもの」

1901年の官営八幡製鐵所の設立以来、本市は多くの重工業の集積を背景に、日本の近代化を牽引してきました。また、その繁栄と引き換えにすさまじい公害も経験しましたが、ついには市民・企業・大学・行政が一体となった取り組みにより、この公害を見事に克服しました。

その結果、1980年代には環境再生を果たした奇跡のまちとして国内外に紹介されるようにもなりました。公害克服の過程において、資源投入から生産、廃棄物の産出にいたるすべての工程における生産効率の向上と環境負荷の低減を目指した企業の取り組みは、のちにクリーナープロダクション（CP）と呼ばれ世界でも共通の言葉となっています。また、本市はこの公害克服の過程で、北九州地域に蓄積された工業・環境保全の技術をアジアの環境人材育成のために役立てる拠点として、（財）北九州国際技術協力協会（KITA）を設立しました。

昨年までに137カ国、5,805人の研修員が本市で環境保全技術を学び、彼らは学んだことを活かして、母国で環境改善に取り組んでいます。また本市はアジアを中心に都市間ネットワークを設立し、加盟都市間で様々な環境協力を行ってきました。中国・大連市との環境モデル地区整備計画事業は、都市間レベルの協力がODAに結びついた初めてのケースであり、この成果が評価され大連市は2001年に中国の都市では初めてUNEP（国連環境計画）の「グローバル500」を受賞しました。

またインドネシア・スラバヤ市においても「高倉バスケット」を用いて、市民、行政、NGO等が一体となり、生ごみの堆肥化（北九州方式市民参加型廃棄物管理事業）に取り組んだ結果、スラバヤ市はごみ総量の10%の減量に成功しています。生ごみは適正に処理されないとすぐにメタンガス化します。メタンガスは、CO₂の21倍の温室効果を持っていますので、コンポスト化することでもかなりのCO₂を削減していることになります。

1990年代に入り、資源の乏しいわが国において、資源の循環利用の必要性が問われてきました。そうした中、あらゆる廃棄物を他の産業の原料として活用し、最終的に廃棄物をゼロにする構想、すなわちゼロ・エミッションを目指した資源循環型社会を構築するため、1997年に北九州エコタウンを立ち上げました。「教育・基礎研究」から「技術開発・実証研究」、「事業化」に至るまで総合的に事業を展開している点や、同一エリア内のリサイクル工場間の相互連携など、他のエコタウンには無い多くの特長をもち、現在までに、16実証研究、25事業が進行しています。従事者数も1,300人、視察者数は延べ80万人という国内でも最も成功したエコタウンの1つとなっています。

これらの大きな経験やチャレンジを成し遂げた都市は、世界中探してもありません。

まさにこれが世界で高く評価されている「北九州力」です。本市の先人たちが成し遂げてきたこれらの歴史・経験が、脈々と我々に受け継がれており、環境分野の取り組みにおけるトップランナーとして、この低炭素社会の実現に向けて挑戦しているのです。

アジア低炭素化センターの意義

日本政府は低炭素社会の実現を目指して、高い目標を掲げて先駆的な取り組みにチャレンジする自治体を環境モデル都市に認定・支援していくこととし、2008年7月、北九州市は環境モデル都市に認定されました。環境モデル都市に向けた行動計画が「北九州グリーンフロンティアプラン」です。

このプランにおいて、2005年を基準として、2050年には市内でCO₂を50%、アジア地域で150%削減するという目標を掲げています。その目標実現に向けて、アジア地域の低炭素化を通じて、地域経済の活性化を図るため、アジア低炭素化センターが設立されました。

もちろん環境モデル都市の中で、海外での削減などを含んでいる都市など他にありません。これも「北九州力」がなせる提案だといえます。では、実際にどのような活動を行っていくのでしょうか。

■アジア低炭素化センターの目指すもの

豊かさを享受しながら、CO₂を大幅に削減するという互いに相反する思想は、従来の発想では十分な対応は困難です。今後、環境技術の分野では、既存技術の活用に加え、イノベーションを引き起こす新技術の開発や新しいビジネスモデルの創造などが必要となってきます。また、社会技術の分野においても新エネルギーの利活用による新たな都市開発、さらにはライフスタイルや住民意識の改革などの取り組みが求められています。センターでは、こうした環境技術や社会技術のアジア地域への積極

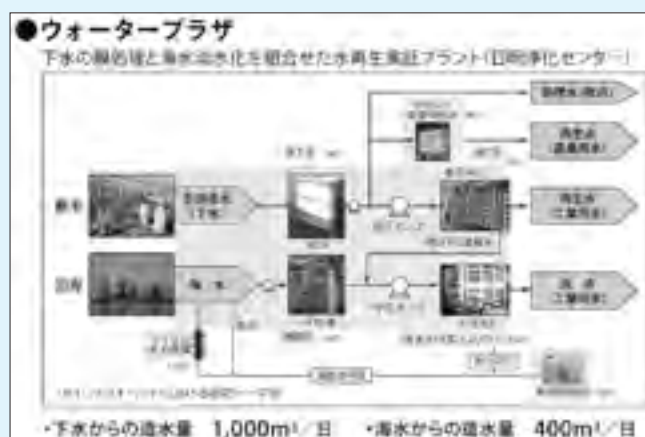
的な輸出を進め、社会の仕組みの変革を図り、新しい価値観や文化を創造する、“アジアの低炭素革命”の拠点を目指します。

■いかにアジアに展開していくか

アジア各地域の社会経済状況は多様であり、センターでは地元企業の保有する環境分野における技術などを基に、対象地域に合わせた技術開発や技術輸出方法等ビジネスモデルの構築を支援します。また、各企業の持つ個々の要素技術を組み合わせることで、対象地域の企業のニーズを満たすと同時に高い付加価値を生み出すことができ、これまで参入の難しかった海外ビジネス展開を実現させることができます。

■アジア低炭素化センターの組織とネットワーク

センターは、北九州市、KITA環境協力センター、IGES北九州アーバンセンターが一箇所に集まり、互いに連携しながら共同実施の方式で運営しています。センター長には、日本における低炭素社会の第一人者である、前東京大学総長小宮山宏氏をお迎えしています。また、環境関連企業のネットワークであるKICS（北九州環境ビジネス推進会）やK-RIP（九州地域環境・リサイクル産業交流プラザ）、さらに気候変動対策・水インフラ分野において、JBIC（国際協力銀行）とも協力関係を構築し、緊密な連携を図ってまいります。また、海外においては、従来の「北九州イニシアティブネットワーク」をさらに発展させ、「アジア環境都市機構」を設立するとともに、この6月にはUNIDO（国連工業開発機関）とも低炭素社会の実現に向けたMOUを締結し、さらにアジア地域における環境ビジネスに関する情報収集機能を強化しております。



3. リサイクル・廃棄物処理

●北九州エコタウンの持つ技術・ノウハウ

中国政府から資源循環型社会構築のためのエコタウン建設に向けた協力要請を受けて、これまで中国政府が認定した青島市、天津市、大連市の3都市のエコタウン建設に協力しています。現在新たな輸出先として、タイ、インド、ロシアなどを検討中です。特にインドにおいては、日本・インド間の国家プロジェクトである「デリームンバイ大動脈構想(DMIC構想)」においても、インド側より協力要請を受けています。

■活動の成果「アジア低炭素化センター初の技術輸出支援事業」

●(株)安川電機が経済産業省の「平成22年度地球温暖化対策技術普及等推進事業」に採択される

(株)安川電機がセンターと共同で、中国の産業部門における高効率モータシステムの普及を目指し、現地の工場で実証試験を行い、温室効果ガス排出削減の可能性や具体的な技術の普及方法について調査する予定です。

終わりに

これまでのお話で、なぜ北九州市が国内のどの都市よりも先駆けてアジア低炭素化センターを設立したか、おわかりになったと思います。先人の辿ってきた歴史や経験、またそれをベースとした環境国際協力や資源循環型社会の構築など、環境のトップランナーとして必然性が存在するのです。

ここで紹介した技術輸出の重点分野や事例はほんの1部で、しかも大企業との共同事業となっています。しかしながら本来は、地元中小企業を中心にすばらしい環境関連技術や製品を持ちながら、単体での海外ビジネスがなかなか難しいという方々を支援することがセンターの目的です。センターでは、個別ビジネスプロジェクトとして、地元中小企業の技術を中心に「事業化推進研究会」を立ち上げて、アジアへの技術・製品輸出を進めていきます。地元中小企業で補えない部分は、オールジャパンの範囲でシステム化、パッケージ化していきます。

この新たな挑戦では、ある意味欧米や韓国、シンガポールなどが既にアジア・アフリカ・南米などで行っている「官民連携」の体制をどれだけ強固に確立できるかという部分が大きなウェイトを占めております。そのためにアジア地域のニーズを的確に把握し、価格面でも仕様面でも現地化されたパッケージシステムを提案し、個別プロジェクト単位で官民連携を進めていきます。

我々アジア低炭素化センターも、これまでの環境国際協力で培ったネットワークや経験、また新たに構築した協力関係をフルに活用して、この大きな目標実現のため、努力していきます。

つきましては、環境国際ビジネスをお考えの皆さま、お気軽にアジア低炭素化センターへご相談ください。(http://www.asiangreencamp.net/) 一緒に“アジアの低炭素革命”を実現させましょう。

■技術輸出の重点分野

それではセンターにおける最新の取り組みを紹介いたします。

1. エネルギービジネス

●現在八幡東田地区で実践しているスマートコミュニティ構想

温室効果ガスの最小化と市民生活の利便性向上を同時に図る「スマートコミュニティモデル」を構築・実証中です。併せて、工場の副生物として発生する水素をパイプラインで供給する世界発の実証試験も実施します。インドやインドネシアにおいて、同システムを現地の社会・産業状況にあわせ改良を行い輸出する計画中です。



2. 水ビジネス

●昨年12月14日、日明浄化センター内にオープンした「ウォータープラザ北九州」

下水の膜処理と海水淡水化を組み合わせることで、従来の海水淡水化の設備と比較して大幅に使用電力を削減させることが可能となります。水不足で困っている地域に対して、技術輸出を計画しています。

もったいない総研の活動

もったいないスクール2010

(社)北九州青年会議所と協働して、子供たちの環境教育「もったいないスクール」を開催した。10月16日ホテルクラウンパレス小倉において、静岡県立吉原工業高等学校の先生および生徒さんから「ひまわりを活用した地域活性化」の状況を講演して頂いた。静岡県富士市では富士商工会議所が音頭をとって、ひまわりを栽培し種や茎を資源として活用する資源循環サイクルを確立しようとしている。吉原工業高等学校は、2年前から「ひまわり入りトイレトペーパー」を開発し販売を始めたが、講演では活動の様子が生徒さんから具体的に報告され、循環型社会の構築に向けた取り組みを知ることが出来た。また、翌日は紫川水上ステージで「環境戦士アースマンショー」を行い、こちらも多くの子供たちが環境保全の大切さを学んだ。



ブラック・イルミネーション&キャンドル・エコ・ナイト in 北九州 2010

環境省の『CO2削減/ライトダウンキャンペーン』および、民間団体の『100万人のキャンドルナイト』の趣旨に賛同し、12月22日(冬至)から23日にかけて首記催しを開催した。市内の企業や団体、ご家庭に、照明を消すように呼びかけたブラック・イルミネーションにはKPEC会員企業が参加した。また、23日に門司港レトロ地区で開催したキャンドル・エコ・ナイトでは照明を消したなかで手作りの1,000個のキャンドルを灯し、ゴスペル歌手や帆柱少年少女合唱団が賛美歌等を歌い、地球環境・愛・思いやりなどについて語りあった。



食と農プロジェクト

身体にやさしい有機栽培で育てた地元の農産物を消費者に伝え、環境に貢献しながら地元食文化を受け継ぎ、子どもたちの食育を進める活動を行っている。今年度は、「もったいない総研」のホームページを大幅に改訂し、北九州のオーガニックを志す農園や、ショップ、レストラン等を周知する活動を行った。

環境「もったいない」作文

未来を担う小・中学生に環境問題への関心を深めてもらうことを目的として、環境「もったいない」作文の募集を行った。北九州市内の小学5年生、中学2年生を対象に、「環境」をテーマとした作文を募集し、合計651件(小学校494件、中学校157件)の応募があった。2011年1月15日の表彰式では、市長賞、市議会議長賞、環境局長賞など、優秀な作品を書いた小・中学生20人を表彰し、代表者が朗読する予定となっている。

もったいない塾(ラジオ)

FM北九州の環境番組「エコロウインド」(毎週日曜日20時～21時放送)の中で、第三日曜日に「もったいない総研」の活動を紹介した。

年長者研修大学校における活動紹介

9月28日北九州市立年長者研修大学校 穴生学舎において、「もったいない総研の取り組み」のテーマでもったいない総研委員が活動状況を紹介した。KPECの紹介DVDの放映や、「もったいない総研」が企画したトイレトペーパー「えこっパー」、小中学校生への環境作文募集など「もったいない総研」の活動を2時間に亘って紹介した。



スポーツ振興チケットによる青少年の健全育成事業

KPECは、「児童及び青少年の健全育成」を事業目的の一つとして掲げ、世界中がサッカーに注視するワールドカップイヤーの本年(H22年)、サッカーを通じた「青少年のスポーツマインドの醸成」、「健全な心身の育成」を図ると共に、本市をホームタウンとするプロサッカーチーム「ギラヴァンツ北九州」との連携によるスポーツを通じた地域活性化を目的として、「スポーツ振興チケットによる青少年の健全育成事業」を進めている。

また、事業の推進に当たっては、この事業の趣旨に賛同する北九州市をはじめとした団体で「スポーツによる青少年健全育成」実行委員会を立ち上げた。同事業は、親子ペアでJリーグ公式戦の観戦の出来る「スポーツ振興チケット」を企画・製作し、9月から北九州市域の小中学校生徒約8万人に提供・配布を始めている。このチケットを活用して、ギラヴァンツ北九州の公式試合(北九州開催のみ)を多くの市民が観戦し、ギラヴァンツ北九州の躍進に大きく寄与するとともに、学校、地域コミュニティ及び家庭等におけるスポーツマインドの醸成や地域コミュニティの交流促進等の活動が誘発されることに期待がかかっている。



「MBA in KIGS 2010」～産学連携による高度人材の育成～

新興国が躍進し多極化する世界と少子高齢化に向かう国内、急速な環境変化の中で国際競争力を維持し、持続的な経済成長を図るためには、技術革新や経営革新などイノベーションを先導する人材の育成が重要になります。そこで、当協議会は大学と連携し、最新の教育プログラムを活用した社会人教育に取り組んでいます。

昨年、北九州市立大学ひびきのキャンパスでMBAのエッセンスを学ぶ短期集中講座を開催し、予想を上回る60名の方に受講頂き好評でした。そこで、今年も下記のように開催し昨年を上回る77名の方に受講して頂き、多くの受講者から有益な内容であったとの意見を頂きました。

受講者の参加目的の多くはマネジメントの知識・スキルの習得であり、これらの目的に適った講座となっており、多くの受講者から高い支持を得ました。一方、社内教育の参考に参加した受講者が数名おり、ケーススタディーなど、より実践的な内容についての要望がありました。しかし、短期集中講座では各自に適切な事例を紹介することは困難であり、またMBAの教材の中には守秘契約を前提とするものもあり、実践的教育に限界があります。より実践的な教育に関心のある方は、北九州市立大学大学院 マネジメント研究科の教育プログラムをご参考ください。(http://www.kitakyu-u.ac.jp/k2bs/index.html)

- 期間:平成22年9月1～3日
- 会場:北九州イノベーションギャラリー

	1時限目(15:00～16:30)	2時限目(16:40～18:10)
1日	マネジメントとは ～ドロッカーから学ぼう～ 齋藤教授	
2日	実践マーケティング入門 丸田教授	産業と景気のダイナミズム 城戸教授
3日		



臨時理事会の報告

11月22日臨時理事会を開催し、「産学連携による高度人材の確保・育成の推進」「経済人による義務教育支援活動の推進」「北九州夢のかけ橋 寄金事業の実施」について研究会で検討を進めてきた事柄を実行に移すことを承認した。

北九州空港から海外旅行が便利に!

羽田への豊富な便数、国際線への乗り継ぎがもっと早く便利!

本格的に国際線が就航した羽田空港。北九州空港からハワイ、北米、欧州の国々へ一度乗り継ぐだけで一直線。早朝から深夜まで北九州⇄羽田一日16便の北九州空港ならお望みの時間に出発できます。

24時間空港同士の最強タッグ、時間が有効に使えて便利!

例えば、ハワイなら普段どおりに仕事を終えて、北九州空港から夜の便で羽田に向かい、深夜便でぐっすり眠れば、ホノルルの朝に到着! 朝から思いっきり遊べます。帰りはホノルルを夕方に出発し、夜の羽田に到着。そのまま深夜便で北九州に帰り着くことも可能になり、忙しい方の週末旅行プランがぐんと広がります。

最短60分!
羽田→成田なら180分

週末パリも可能に!

北九州空港の利用促進と21世紀にふさわしい空港づくりを進める

北九州空港振興協議会
TEL. 093-541-1798
http://www.tobetobekita-q.jp

とべとべ北Q 検索

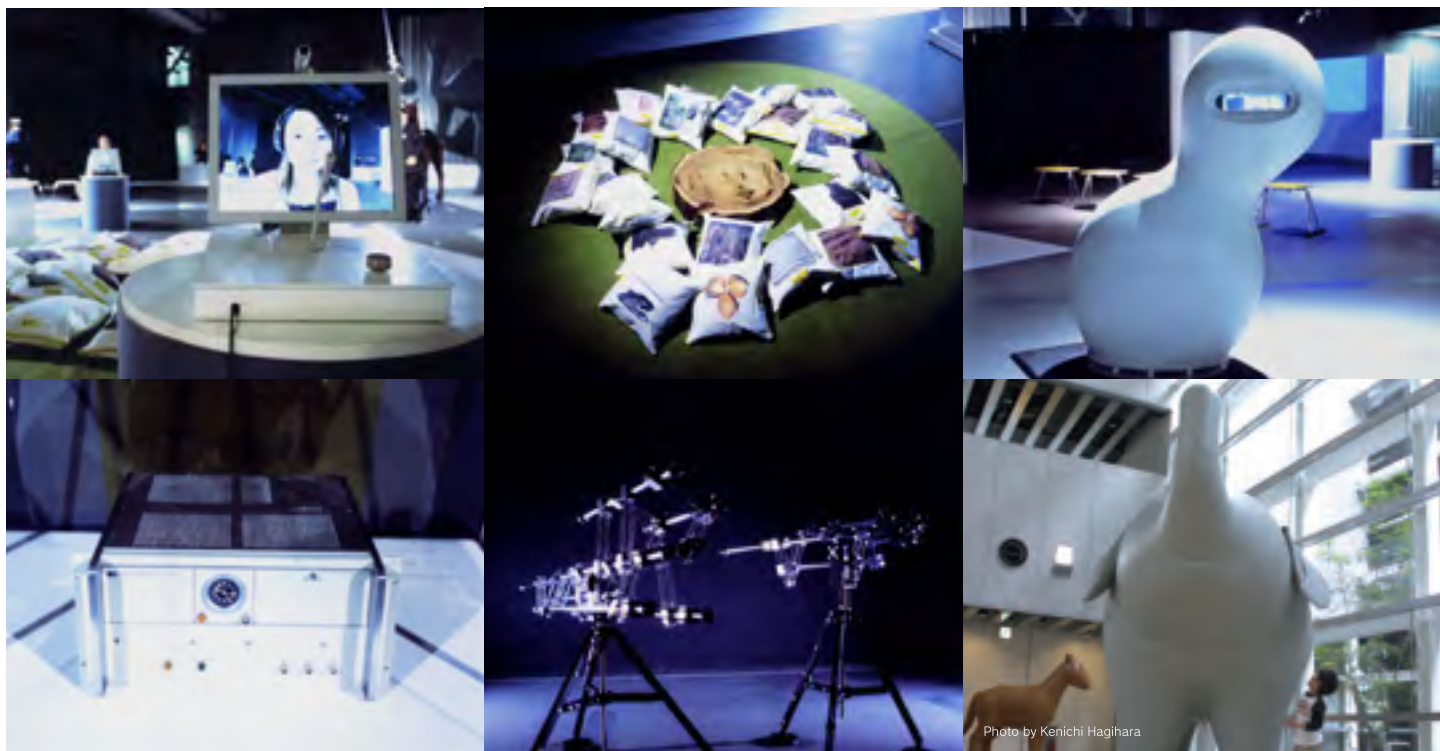
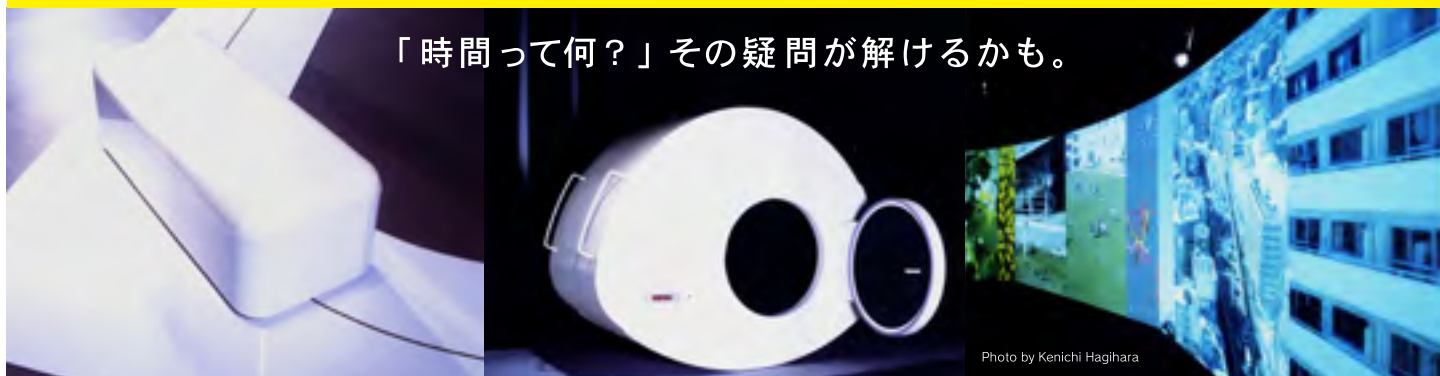


Photo by Kenichi Hagihara

TIME! TIME! TIME! 時間旅行展 Exploration of TIME!



「時間って何？」その疑問が解けるかも。

Photo by Kenichi Hagihara

2011・1/20 THU ▶ 3/6 SUN

会場：北九州イノベーションギャラリー

北九州市八幡東区東田2-2-11
TEL093-663-5411 FAX093-663-5422 <http://www.kigs.jp>

入 場 料：一般500円 小中学生250円（団体30名以上は2割引）

開館時間：午前9時～午後7時（土・日・祝日は午後5時まで、企画展示室への入場は閉場時間の30分前まで）

休 館 日：月曜日 ※祝日の場合は翌日

主催：北九州市、北九州イノベーションギャラリー

後援：北九州市教育委員会、北九州市PTA協議会、北九州商工会議所、JR九州、西鉄バス北九州（株） 企画制作：日本科学未来館

KIGS
北九州イノベーションギャラリー
産業技術保存継承センター
KITAKYUSHU INNOVATION GALLERY & STUDIO
指定管理者：公益財団法人 北九州活性化協議会

■（公財）北九州活性化協議会は北九州イノベーションギャラリーの指定管理者として運営管理を行っております。

編集・発行 （公財）北九州活性化協議会

〒802-0082 北九州市小倉北区古船場町1番35号北九州市立商工貿易会館 6階
TEL (093) 541-3122 (代) FAX (093) 541-0636 <http://www.kpec.or.jp>

KPEC NEWS